



キックオフ座談会

令和6年6月12日

広島県子供未来応援課

- 1 少子化の現状・課題**
- 2 子供を持ちたいという希望を実現するには？**
- 3 社会全体で子育てを応援するとは？**

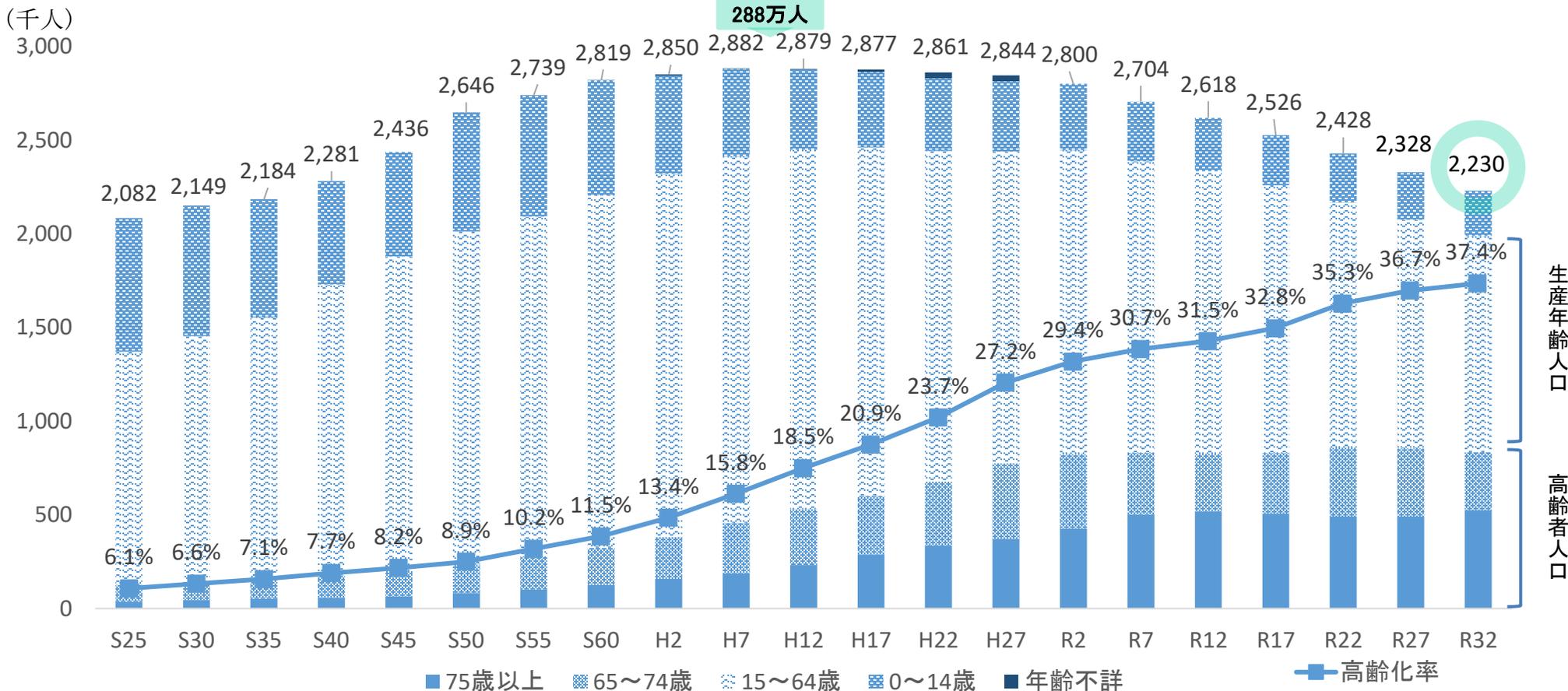
1 少子化の現状・課題

2 子供を持ちたいという希望を実現するには？

3 社会全体で子育てを応援するとは？

将来推計人口と人口構造（広島県）

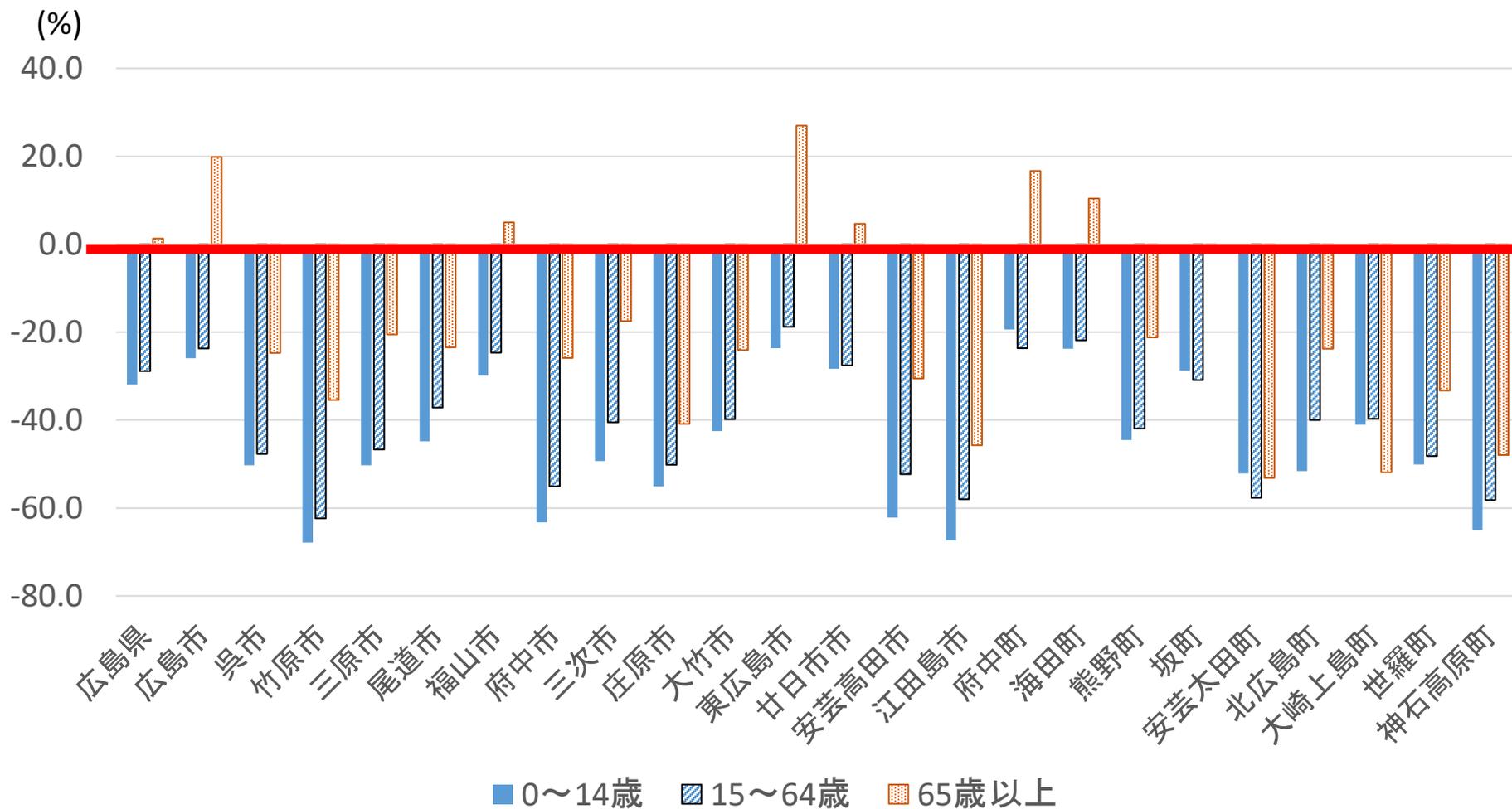
- 本県の人口は、H10(1998)年の288万人をピークに減少。R32(2050)年にはピーク時から約65万人減（△22.6%）の223万人になると推計
- 生産年齢人口は、R2～R32の30年間で、約47万人減少。高齢者人口は、R22(2040)年にピークを迎えるまで緩やかに増加し、その後減少（R2～R22の20年間で約3.5万人増加、R22～R32の10年間で約2.4万人減少）。



※出典：R27(2020)年までは総務省「国勢調査」、R7(2025)年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（R5(2023年)推計）

市町別・若年人口は2～6割減少（2050年）

➤ 0～14歳、15～64歳の2050年の推計人口は、2020年の人口と比較して県内すべての市町において減少。



(国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(R5(2023年)推計))

人口減少（社会減）の現状

- 本県の社会動態は平成28年以降、**転出超過**で推移。
- 年齢階級別にみると、「**20～24 歳**」の転出超過が大きな割合を占め、**令和2年以降、拡大し続けている**。

<年齢階級別転出入超過の推移>

(単位:人)

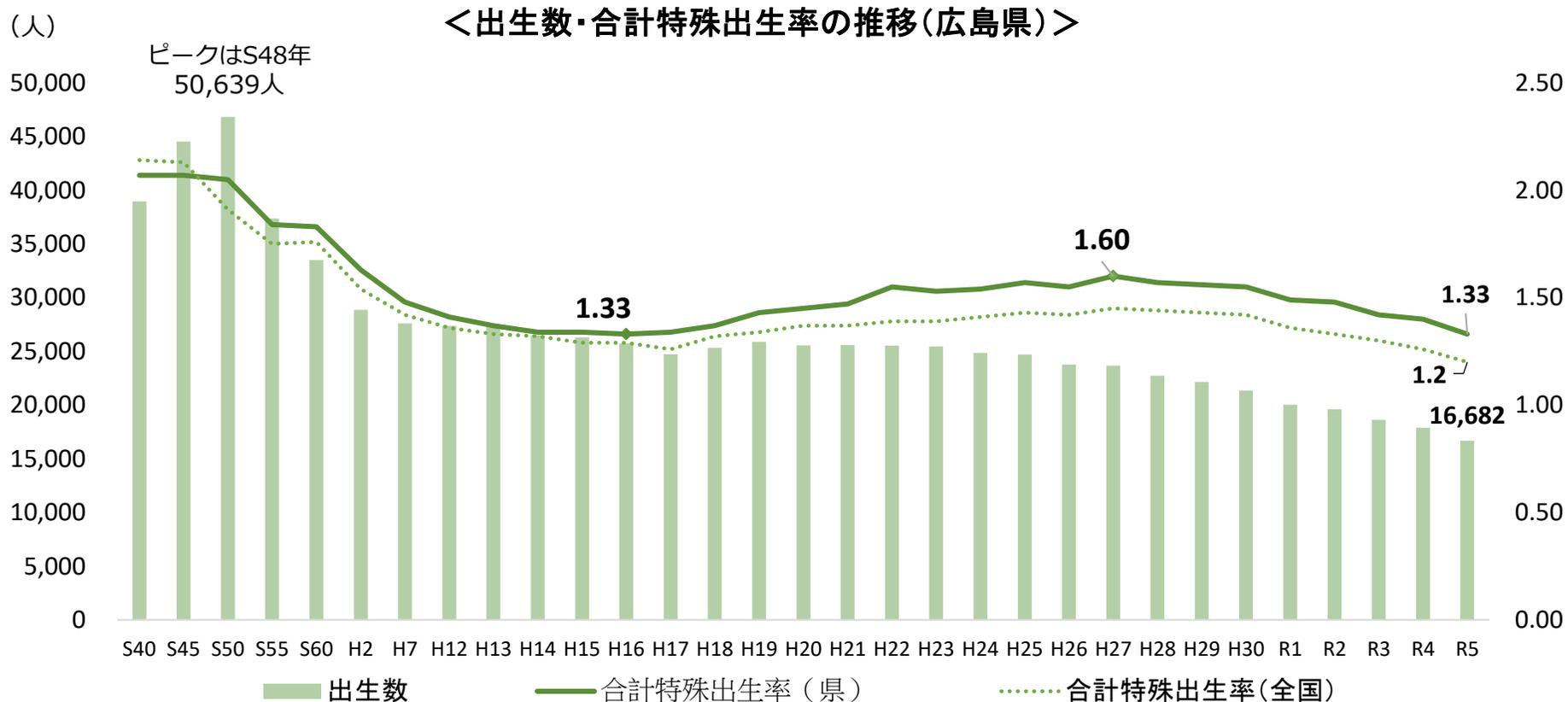
年齢階級	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	前年との差
総 数	567	412	△ 1,761	△ 2,803	△ 3,117	△ 4,982	△ 2,491	△ 4,821	△ 6,399	△ 7,235	△ 836
0～14歳	△ 99	△ 324	△ 116	△ 205	△ 294	△ 593	△ 44	△ 314	△ 556	△ 27	529
15～19歳	△ 183	△ 73	5	266	87	△ 148	409	△ 172	△ 264	△ 527	△ 263
20～24歳	△ 2,077	△ 2,193	△ 2,449	△ 2,256	△ 2,967	△ 3,657	△ 3,141	△ 3,709	△ 3,877	△ 4,601	△ 723
25～29歳	△ 361	△ 199	△ 454	△ 459	△ 460	△ 782	△ 537	△ 470	△ 1,371	△ 1,461	△ 90
30～34歳	74	360	245	8	184	△ 199	△ 113	8	△ 425	△ 550	△ 126
35～39歳	120	△ 114	172	90	24	△ 111	183	△ 9	△ 161	△ 5	156
40～44歳	163	△ 1	180	△ 139	110	38	292	△ 137	118	64	△ 54
45～49歳	△ 101	2	160	7	△ 14	30	126	△ 21	0	99	99
50～54歳	9	110	1	△ 91	34	121	76	△ 31	54	8	△ 47
55～59歳	△ 25	△ 34	131	89	64	180	94	39	146	17	△ 129
60～64歳	66	53	110	27	102	142	74	△ 8	156	△ 41	△ 196
65歳以上	△ 57	△ 203	149	△ 244	△ 89	△ 105	△ 14	3	△ 218	△ 211	8

注) 令和2年以前の「総数」は、国勢調査結果による補正を行っているため、内訳の合計と一致しない。

出所：広島県人口移動統計調査（年報）（乙調査）

出生数・合計特殊出生率の推移（広島県）

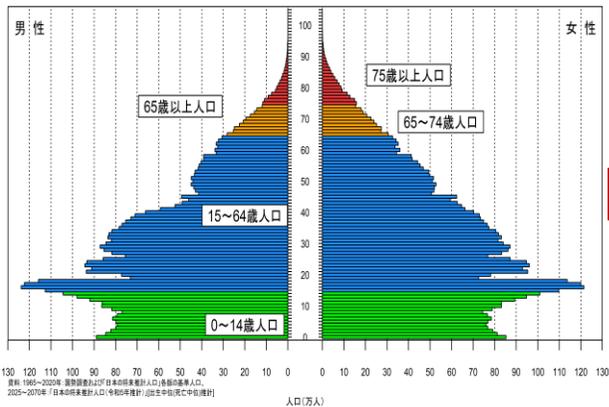
- 広島県の出生数は、S48年以降減少が続き、R2年に2万人を割り込んだ。R5年は16,682人。
- 合計特殊出生率は、全国平均を上回って推移してはいるものの、少子化に歯止めをかけることはできていない。



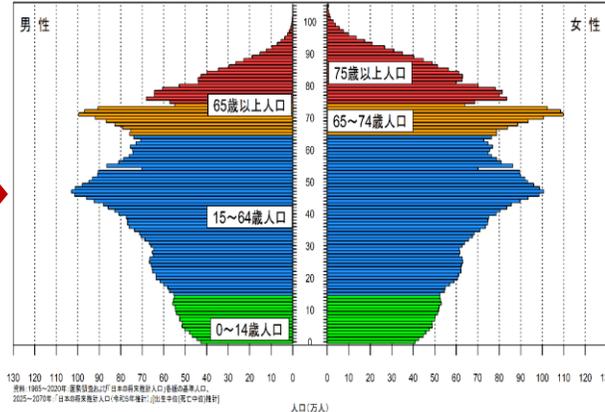
（厚生労働省「人口動態月報年計」より）

少子化（人口構造の変容）がもたらす影響

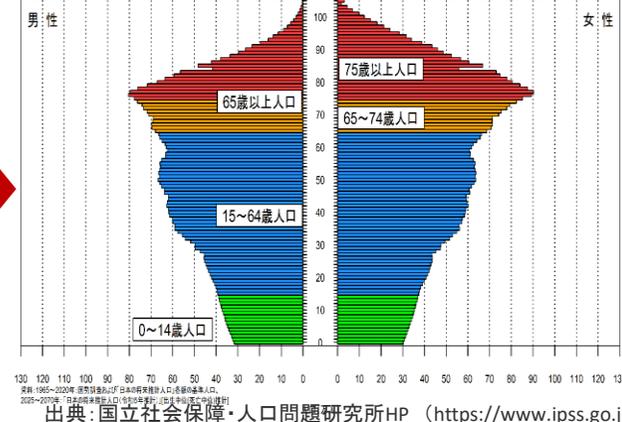
1965年



2020年



2050年



1965年
9.1人に1人
【胴上げ型】



2020年
2.1人に1人
【騎馬戦型】



2050年
1.2人に1人
【肩車型】



人口減少
特に生産年齢人口
の減少

- ✓ 労働供給の減少
- ✓ 経済・市場規模の縮小
- ✓ 現役世代の負担増
- ✓ 地域・社会の担い手の不足
- ✓ 税収入の減／税負担の増
- ✓ 社会保障制度を維持することが困難に

行政サービスの低下

社会保障制度の破綻

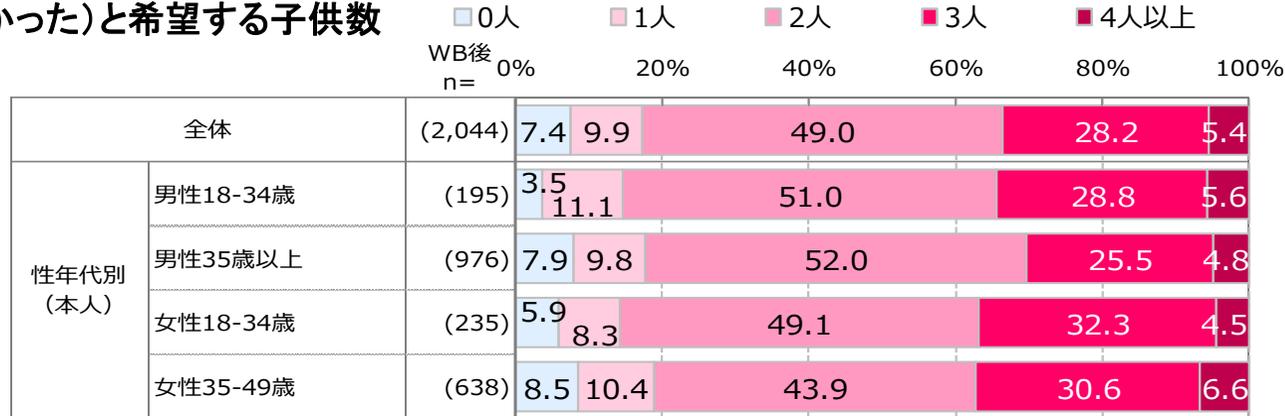
経済成長率の低下

- 1 少子化の現状・課題
- 2 **子供を持ちたいという希望を実現するには？**
- 3 社会全体で子育てを応援するとは？

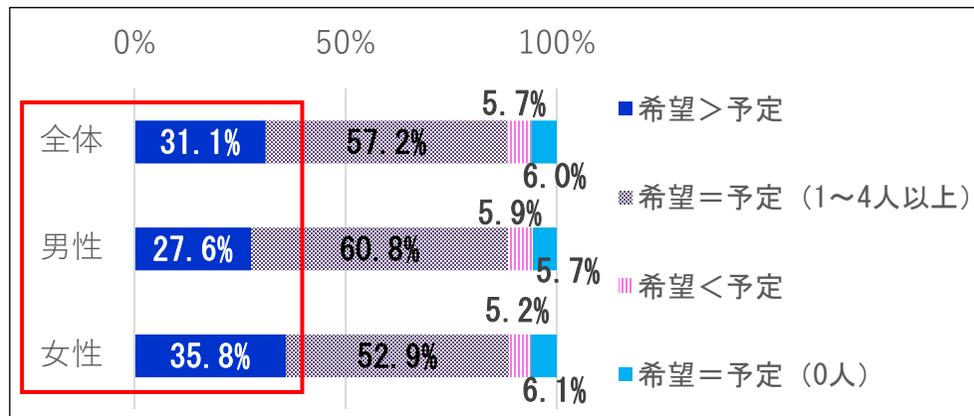
予定している子供数・希望する子供数

- 希望する子供数は、8割以上の方が「2人以上」、3割以上の方が「3人以上」を希望している。
- 希望の子供数を持っていない（希望>予定）割合は31.1%であった。
- 男女別では、女性の方が希望の子供数を持っていない割合が高かった（女性35.8%、男性27.6%）。

・本当に持ちたい(持ちたかった)と希望する子供数

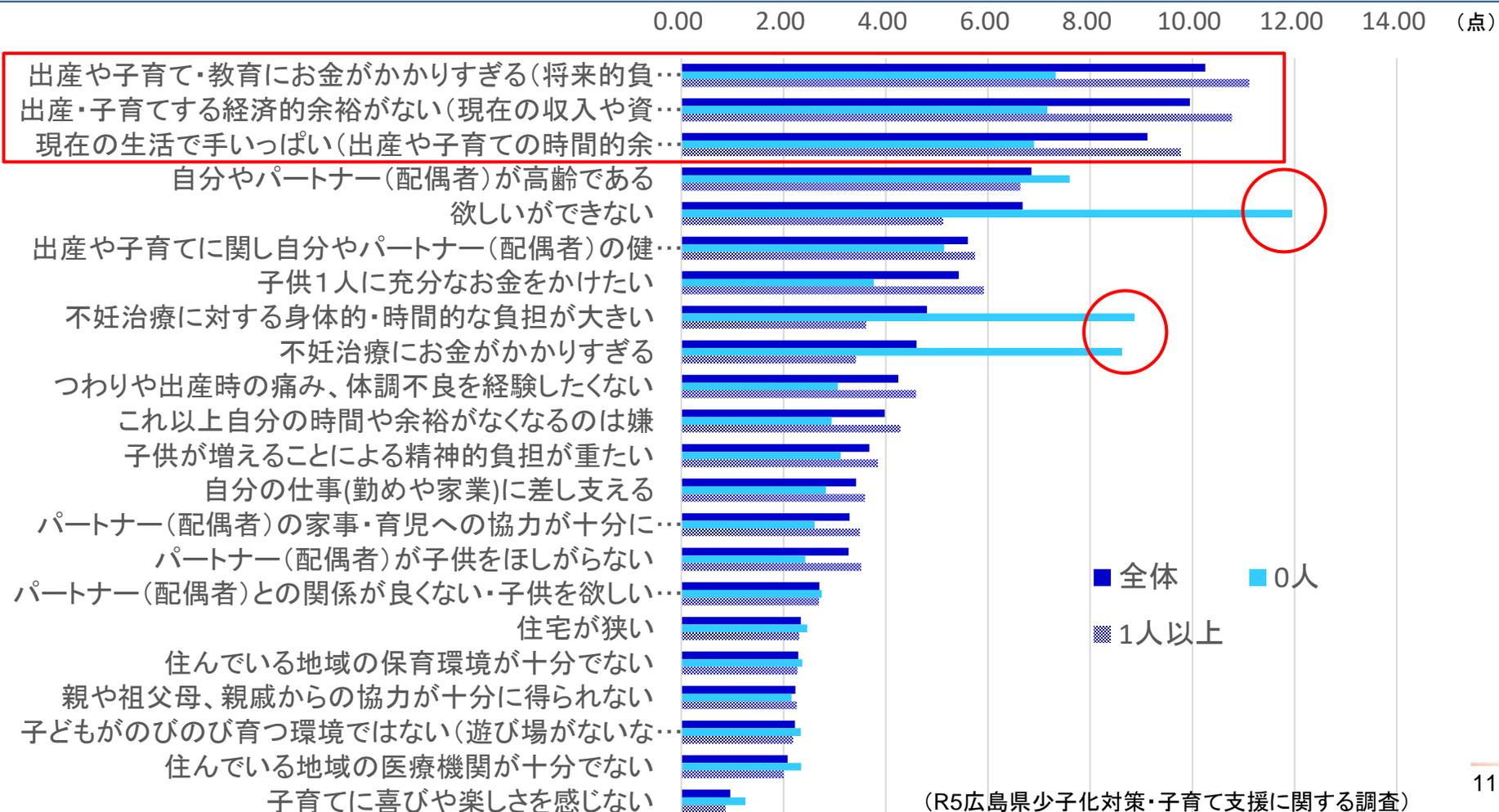


・予定している子供数と希望している子供数の関係



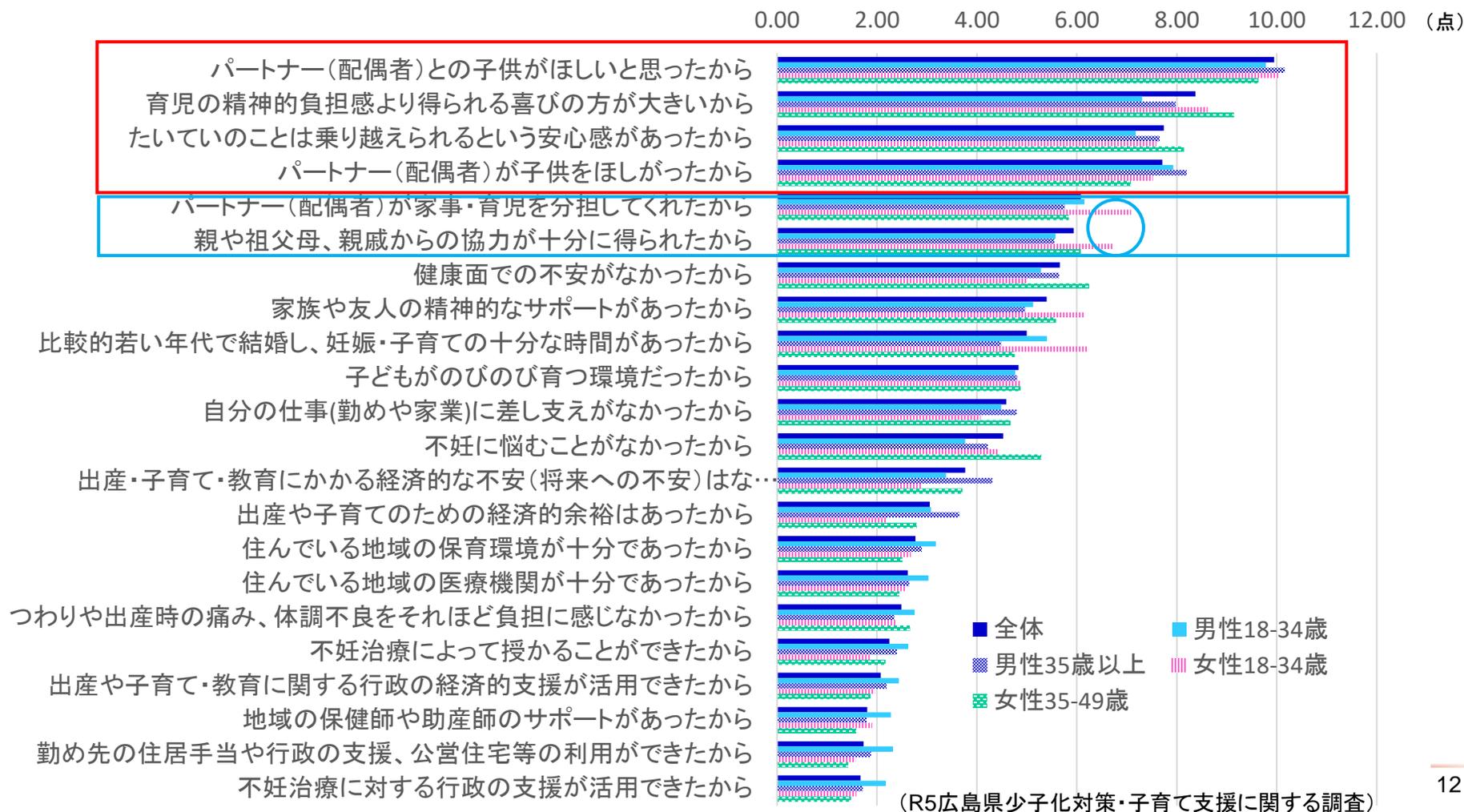
希望の子供数を持たない理由

- 希望の子供数を持たない理由として、「全体」では、経済的負担に係る理由が多く、次いで、時間的余裕がないとの理由が多かった。
(※グラフは、「全体」の順位が高い順。多数の選択肢の重みづけが可能なMaxDiff法により点数化)
- 予定している子供数が0人の場合は、欲しいができない、不妊治療の負担が上位であった。



希望の子供数を持てた理由

- 希望どおりの子供の数を持てた理由として、心情的な理由が大きく、次いで家事・育児の分担、親等からの協力であった。（※グラフは、「全体」の順位が高い順。多数の選択肢の重みづけが可能なMaxDiff法により点数化）
- 家事・育児の分担、親等からの協力は、女性（18～34歳）で特に大きい傾向が見られた。（青丸）



もう一人出産・子育てをしようという意思決定につながる支援



- もう一人出産・子育てをしようという意思決定につながる支援策については、「妊娠・出産・子育ての経済的負担のさらなる軽減」が最も多く39.4%であった。
- 「妊娠・出産・子育ての経済的負担のさらなる軽減」を回答した割合は、男性より女性が高く、子の学齢が低いほど高い傾向があった。

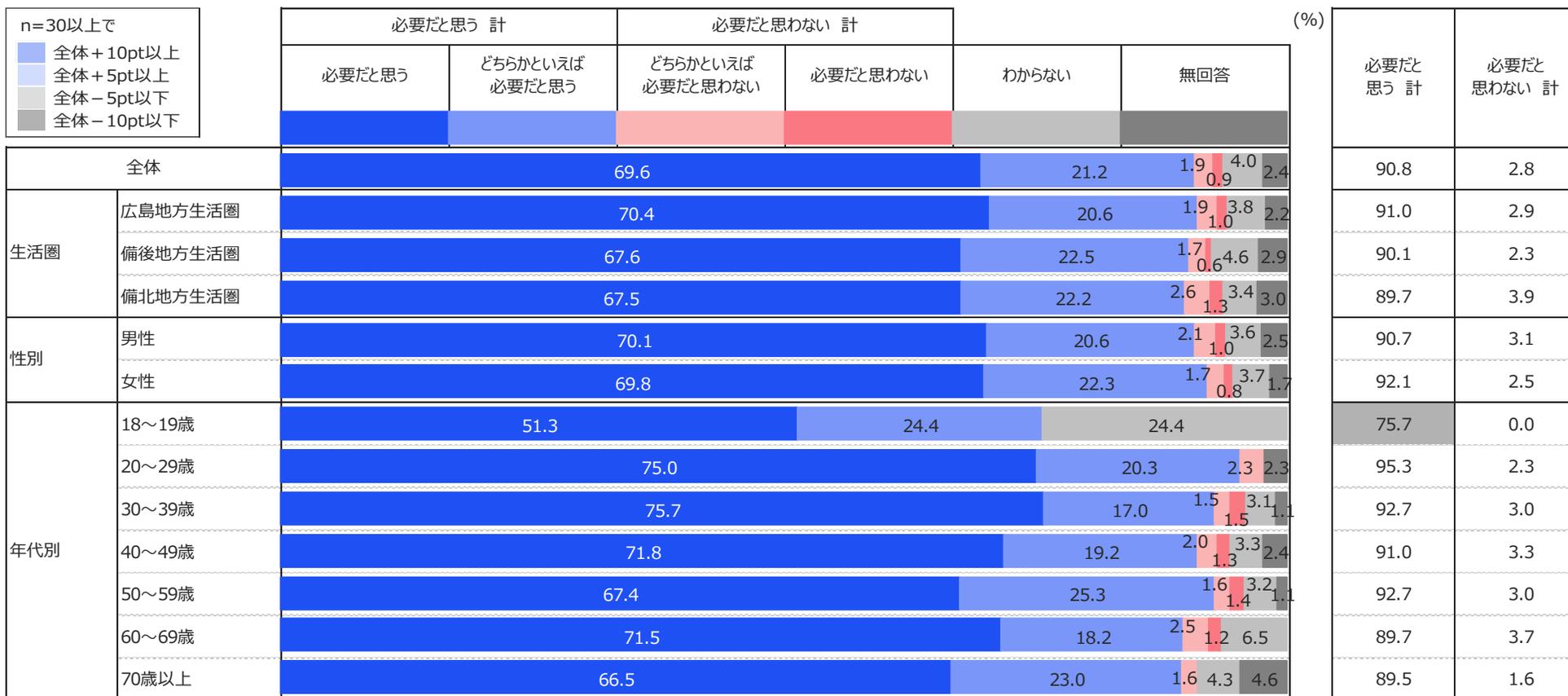
区分		n数	不妊治療への支援	妊娠・出産・子育ての心理的負担を軽減するサービスの充実	妊娠・出産・子育ての経済的負担のさらなる軽減	子育てに係る身体的負担を軽減するサービスの充実	夫婦が共に働きながら子育てしやすい社会や職場環境の整備	その他	わからない
全体		(2,044)	7.9	7.5	39.4	10.8	14.8	1.7	17.9
性年代別 (本人)	男性18-34歳	(195)	9.6	11.1	39.9	10.6	9.1	1.0	18.7
	男性35歳以上	(976)	8.4	8.6	35.1	11.1	15.1	1.9	19.8
	女性18-34歳	(235)	4.0	7.8	53.8	9.4	12.5	1.4	11.1
	女性35-49歳	(638)	8.2	4.6	40.6	10.9	16.9	1.7	17.2
子の学齢別	3歳未満	(466)	5.4	9.8	50.4	8.1	13.4	1.4	11.5
	3~6歳(未就学児)	(526)	7.0	8.2	47.2	10.0	14.7	1.7	11.1
	小学生	(816)	5.5	8.1	41.6	13.4	15.2	2.2	14.0
	中学生	(370)	6.8	6.9	38.6	14.3	14.9	1.6	16.9
	高校生以上	(394)	3.0	4.7	36.0	12.9	17.4	1.6	24.3

- 1 少子化の現状・課題
- 2 子供を持ちたいという希望を実現するには？
- 3 **社会全体で子育てを応援するとは？**

社会全体で応援する意識 (R5県政世論調査より)

Q12 あなたは、希望する人が安心して妊娠・出産・子育てができるよう、社会全体で妊産婦や子ども、子育て中の人を応援しようという意識を持つことについて、どう思いますか。(SA)

● **社会全体で応援する意識は、「必要だと思う計」(「必要だと思う」+「どちらかといえば必要だと思う」)の割合が90.8%。**



社会全体での子育ての応援

- 社会全体で子供を産み・育てている方を応援することについて、「応援されていると感じる」「やや応援されていると感じる」の合計は25.8%であった。
- 応援されていると感じるときは、「行政のサポートを受けたとき」が最も高く48.2%であった。
- 応援されていないと感じるときは、「行政のサポートが得られないとき」が最も高く49.7%であった。

WB後 n= 0% 20% 40% 60% 80% 100%
 ■ 応援されていると感じる ■ やや応援されていると感じる ■ どちらともいえない/わからない ■ あまり応援されていないと感じる ■ 応援されていないと感じる

項目	人数	応援されていると感じる (%)	やや応援されていると感じる (%)	どちらともいえない/わからない (%)	あまり応援されていないと感じる (%)	応援されていないと感じる (%)	
全体	(2,044)	5.1	20.7	39.6	20.0	14.7	
性年代別 (本人)	男性18-34歳	(195)	6.1	28.8	37.4	13.1	14.6
	男性35歳以上	(976)	6.0	21.1	39.1	18.6	15.2
	女性18-34歳	(235)	5.2	23.1	35.1	21.9	14.6
	女性35-49歳	(638)	3.3	16.7	42.7	23.5	13.9
子の学齢別	3歳未満	(466)	9.9	22.4	33.9	21.9	11.9
	3~6歳 (未就学児)	(526)	6.1	22.6	36.4	20.5	14.4
	小学生	(816)	5.6	20.5	36.9	21.8	15.2
	中学生	(370)	4.4	21.0	37.1	25.0	12.5
	高校生以上	(394)	3.5	16.3	43.8	21.8	14.6

【応援されていると感じるとき】

項目 (複数選択可)	(%)
家族の理解・サポートを受けたとき	46.3
親や親戚の理解・サポートを受けたとき	44.7
職場の理解・サポートを受けたとき	44.7
行政のサポートを受けたとき	48.2
友人・知人の理解・サポートを受けたとき	26.9
地域や外出先の施設でサポート (子育て向けのサービス含む) を受けたとき	40.3
その他	0.4
特にない・なんとなく	5.0

【応援されていないと感じるとき】

項目 (複数選択可)	(%)
家族の理解・サポートが得られないとき	10.8
親や親戚の理解・サポートが得られないとき	9.7
職場の理解・サポートが得られないとき	26.2
行政のサポートが得られないとき	49.7
友人・知人の理解・サポートが得られないとき	5.8
地域や外出先の施設でサポート (子育て向けのサービス含む) が得られないとき	28.9
その他	4.6
特にない・なんとなく	26.5

- 1 少子化の現状・課題
- 2 子供を持ちたいという希望を実現するには？
- 3 社会全体で子育てを応援するとは？

県民と知事の車座会議

	日時	テーマ	想定している参加者
第1回	7月1日(月) 13:15～	そもそも少子化対策は必要か？	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て当事者 ・子供を持たない選択をした人 ・子育てを終えた世代
第2回	7月4日(木) 14:15～	子供を持つ・持たないという選択について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層
第3回	7月30日(火) 13:45～	子育て・教育に係る負担を社会がどこまで負担すべきか？	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て当事者 ・子供を持たない選択をした人 ・子育てを終えた世代
第4回	8月21日(水) 10:45～	仕事と子育てを両立しやすい社会環境ってどんな環境？	<ul style="list-style-type: none"> ・企業代表者・役員
第5回	8月28日(水) 10:45～	社会全体で子育てを支えるってどういうこと？	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て当事者 ・子供を持たない選択をした人 ・子育てを終えた世代